

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現 金	当 座 預 金	普 通 預 金	売 掛 金	貸 倒 引 当 金
仮 払 消 費 税	貯 蔵 品	車 両 運 搬 具	土 地	買 掛 金
未 払 金	仮 受 消 費 税	未 払 消 費 税	売 上	受 取 手 数 料
雑 益	仕 入	通 信 費	租 税 公 課	貸 倒 損 失
貸倒引当金繰入	支 払 手 数 料	雑 費	雑 損	現 金 過 不 足

1. 販売用の中古車 ¥ 2,000,000 を仕入れ、代金は消費税（税率：10%、記帳方法：税抜方式）を含めて掛けとした。なお、当社は中古車販売業を営んでいる。
2. 先日購入した土地の仲介手数料 ¥ 110,000 を、不動産仲介業者に現金で支払った。
3. 当期に発生した売掛金 ¥ 300,000 が貸し倒れた。なお、貸倒引当金の残高は ¥ 220,000 である。
4. 前期末の決算において棚卸しを行ったところ、郵便はがき ¥ 6,300 と郵便切手 ¥ 8,200 が未使用のまま残っていることが判明したため、適切な勘定に振り替えた。当期首において再振替仕訳を行う。
5. 決算において、現金過不足（不足額）¥ 2,000 の原因を改めて調査した結果、収入印紙の購入額 ¥ 2,400（※期中に全て使用済み）、手数料の受取額 ¥ 1,000 の記入漏れが判明した。なお、残りの金額は原因が不明であったので、適切に処理することとした。

第2問 (10点)

次の【商品ハンモックに関する資料】にもとづいて、下記の設問に答えなさい。

【商品ハンモックに関する資料】

8月1日	前月繰越	20個	@¥ 4,000	
9日	仕入	80個	@¥ 4,400	
13日	仕入戻し	20個	@¥ 4,400	※ 9日仕入分の戻し
15日	売上	70個	@¥ 6,200	
21日	仕入	90個	@¥ 4,500	※ 当店負担の引取費用 ¥ 9,000 は現金で支払った
27日	売上	60個	@¥ 6,600	※ 当店負担の発送費 ¥ 6,000 は現金で支払った

1. 商品ハンモックの商品有高帳を作成しなさい。商品の払出単価の決定方法は先入先出法を採用し、商品を受け入れたさいの残高欄には受け入れ直前の残高もあわせて記入すること。また、仕入戻しの商品有高帳への記入は払出欄に行くこと。なお、上記資料の21日の仕入単価 @¥ 4,500 には、当店負担の引取費用 ¥ 9,000 は含まれていない点に留意すること。
2. 商品の払出単価の決定方法として移動平均法を採用した場合における、商品ハンモックの「8月の売上総利益」を計算しなさい。

第3問 (30点)

次の [A] および [B] に示した資料にもとづいて、×1年9月30日の合計残高試算表を作成しなさい。

[資料A] ×1年9月1日の残高試算表

残 高 試 算 表			
借 方	金 額	貸 方	金 額
現 金	897,000	支 払 手 形	629,000
普 通 預 金	633,000	買 掛 金	1,065,000
受 取 手 形	616,000	貸 倒 引 当 金	82,000
売 掛 金	1,247,000	建 物 減 価 償 却 累 計 額	265,000
繰 越 商 品	578,000	資 本 金	6,000,000
貸 付 金	1,500,000	繰 越 利 益 剰 余 金	1,226,000
建 物	1,440,000	売 上	5,977,000
土 地	3,000,000	受 取 利 息	83,000
仕 入	4,128,000	受 取 手 数 料	107,000
給 料	1,250,000		
減 価 償 却 費	25,000		
消 耗 品 費	?		
水 道 光 熱 費	?		
	15,434,000		15,434,000

[資料B] ×1年9月中の取引

- (1) 現金勘定の記入 ※諸口は土地の売却にかかるものである。
借方記入の内訳 (普通預金 ¥ 156,000 受取手数料 ¥ 14,000 諸口 ¥ 510,000)
貸方記入の内訳 (消耗品費 ¥ 35,000)
- (2) 普通預金勘定の記入 ※諸口は利息を含めた貸付金の回収にかかるものである。
借方記入の内訳 (売上 ¥ 513,000 受取手形 ¥ 639,000 売掛金 ¥ 302,000 諸口 ¥ 370,000)
貸方記入の内訳 (仕入 ¥ 231,000 支払手形 ¥ 958,000 買掛金 ¥ 180,000 現金 ¥ 156,000
給料 ¥ 250,000 水道光熱費 ¥ 18,000)
- (3) 受取手形勘定の記入
借方記入の内訳 (売上 ¥ 422,000 売掛金 ¥ 374,000)
貸方記入の内訳 (普通預金 ¥ 639,000)
- (4) 支払手形勘定の記入
借方記入の内訳 (普通預金 ¥ 958,000)
貸方記入の内訳 (仕入 ¥ 724,000 買掛金 ¥ 240,000)
- (5) 売上勘定の記入
借方記入の内訳 (売掛金 ¥ 198,000)
貸方記入の内訳 (普通預金 ¥ 513,000 受取手形 ¥ 422,000 売掛金 ¥ 858,000)
- (6) 仕入勘定の記入
借方記入の内訳 (普通預金 ¥ 231,000 支払手形 ¥ 724,000 買掛金 ¥ 220,000)
貸方記入の内訳 (買掛金 ¥ 124,000)
- (7) 上記以外の9月中の取引
 - ① 前期に発生した売掛金 ¥ 110,000 が貸し倒れた。
 - ② 当月分の建物の減価償却費 ¥ 5,000 を計上した。

第4問 (10点)

ジョナサン・アンダーソン株式会社は、日々の取引を入金伝票・出金伝票・振替伝票の3種類の伝票に記入し、これを1日分ずつ集計して仕訳日計表を作成し、この仕訳日計表から総勘定元帳に転記している。同社の×1年11月1日の取引について作成された次の各伝票にもとづいて、以下の各問に答えなさい。

問1 仕訳日計表を作成し、総勘定元帳に転記しなさい。

問2 伝票の記録から買掛金元帳の東京商店勘定に転記しなさい。

入金伝票 受取利息	No. 101 3,000	出金伝票 租税公課	No. 201 10,000	振替伝票 売掛金 (大阪商店)	No. 301 89,000
入金伝票 売掛金 (大阪商店)	No. 102 77,000	出金伝票 支払手数料	No. 202 4,000	売上 89,000	
入金伝票 売上	No. 103 58,000	出金伝票 仕入	No. 203 92,000	振替伝票 仕入	No. 302 65,000
入金伝票 仮受金	No. 104 36,000	出金伝票 買掛金 (東京商店)	No. 204 49,000	買掛金 (東京商店) 65,000	
				振替伝票 買掛金 (博多商店) 電子記録債務	No. 303 21,000 21,000

第5問 (30点)

会計期間を4月1日から3月31日までとするアマソナ靴製造所の、×2年度末における次の【決算整理前残高試算表】および【決算整理事項等】にもとづいて、答案用紙の貸借対照表と損益計算書を完成させなさい。

【決算整理前残高試算表】

決算整理前残高試算表
×3年3月31日

借方	勘定科目	貸方
1,547,500	現金	
	現金過不足	5,000
821,500	普通預金	
479,600	受取手形	
545,800	売掛金	
245,000	繰越商品	
2,700,000	建物	
800,000	備品	
	支払手形	383,700
	買掛金	403,300
	貸倒引当金	50,000
	建物減価償却累計額	540,000
	備品減価償却累計額	400,000
	資本金	4,500,000
	繰越利益剰余金	500,100
	売上	2,696,100
	受取家賃	117,000
	受取手数料	10,200
1,792,800	仕入	
440,000	給料	
152,200	広告宣伝費	
81,000	保険料	
9,605,400		9,605,400

【決算整理事項等】

- 現金過不足の原因を調査した結果、広告宣伝費 ¥ 3,200 の支払い、および手数料の受取額 ¥ 6,800 が未記帳であることが判明した。
なお、残りの金額は原因が不明なので、決算において適切な処理を行うことにした。
- 得意先パズル商店が倒産し、前期に発生した同店に対する売掛金 ¥ 8,500 と、当期に発生した同店に対する売掛金 ¥ 4,900 が回収不能となったが、この取引が未記帳であることが判明した。
- 決算日の前日に掛けで販売した商品に品違いがあり、売価 ¥ 12,000 (原価 ¥ 10,000) の商品が返品されたが、この取引が未記帳であることが判明した。
- 期末商品棚卸高は ¥ 200,000 である。なお、この金額には上記の返品分は含まれていない。
- 建物 (耐用年数は30年、残存価額はゼロ) および備品 (耐用年数は4年、残存価額はゼロ) について定額法により減価償却費を計上する。
- 給料の未払分が ¥ 40,000 ある。
- 受取手形と売掛金の期末残高に対して、差額補充法により4%の貸倒引当金を設定する。
- 保険料はかねてより所有している建物に対するもので、毎年同じ金額を10月1日に向こう1年分支払っている。
- 受取家賃は、所有する建物の一部の賃貸によるもので、偶数月の月末にむこう2か月分として ¥ 18,000 を受け取っている。